

令和7年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名：南薩地域振興局農林水産部農政普及課

| 課題名③              | 早期水稻多収品種の生産強化と産地維持に向けた支援(南薩地域の水田営農確立とニーズに応じた水稻の生産拡大) | 評価結果(人) |          |         | 外部委員からの<br>意見・提言                                                | 意見・提言等に対する改善策や<br>普及指導計画への反映等                                                                       |
|-------------------|------------------------------------------------------|---------|----------|---------|-----------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                   |                                                      | 適当      | 概ね<br>適当 | 要<br>改善 |                                                                 |                                                                                                     |
| 課題の<br>設定         | ①農業者や地域が必要とする課題であるか                                  | 4       | 2        |         |                                                                 |                                                                                                     |
| 対象の<br>選定         | ②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか                          | 2       | 4        |         |                                                                 |                                                                                                     |
| 活動体制・<br>活動方法     | ③関係機関とうまく連携して活動しているか                                 | 5       | 1        |         |                                                                 |                                                                                                     |
|                   | ④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか                               | 5       | 1        |         |                                                                 |                                                                                                     |
|                   | ⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか                        | 4       | 2        |         |                                                                 |                                                                                                     |
| 活動の<br>成果         | ⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか                           | 4       | 2        |         | ・新品種の取組が活発に行われている。<br>・直播技術、再生二期作の確立が進んでいる。<br>・生産者の利益向上が期待できる。 | ・地域及び生産者の実情(作業体系や防除体系等)を踏まえながら、関係機関と一体となって地域に適した品種導入を推進する。<br>・直播栽培、再生二期作については収量、品質向上を目指し、支援を継続します。 |
| 活動の<br>波及性<br>と改善 | ⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか                               | 3       | 3        |         |                                                                 |                                                                                                     |
|                   | ⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか                           | 3       | 3        |         |                                                                 |                                                                                                     |

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名：南薩地域振興局農林水産部農政普及課

| 課題名③              | 早期水稻多収品種の生産強化と産地維持に向けた支援(南薩地域の水田営農確立とニーズに応じた水稻の生産拡大) | 評価結果(人) |          |         | 外部委員からの<br>意見・提言                                                                                                               | 意見・提言等に対する改善策や<br>普及指導計画への反映等                                                                                                                                            |
|-------------------|------------------------------------------------------|---------|----------|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                   |                                                      | 適当      | 概ね<br>適当 | 要<br>改善 |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                          |
| 課題の<br>設定         | ①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか                               | 7       |          |         | —                                                                                                                              | —                                                                                                                                                                        |
| 対象の<br>選定         | ②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか                          | 7       |          |         | ・二期作は水があるところしか導入できないのが課題で、干拓地や川水利用地のみである。                                                                                      | ・再生二期作については水の確保が重要であり、栽培可能な地域が限定される状況。水の利用が難しい地域については、水稻裏作による水田の高度利用を推進する。                                                                                               |
| 活動体制・<br>活動方法     | ③関係機関と連携して活動しているか                                    | 5       | 2        |         | ・市との共有はあるが、JAとの情報不明。                                                                                                           | ・直播栽培には複数の栽培方式があり、地域の実情に合わせて栽培方式を選定、栽培体系を構築する必要がある。適宜実証ほを設置し、地域への波及を図る。<br>・地域全体へ周知を図るべき技術については、関係機関と連携し、現地検討会等を通じて、より多くの生産者への波及に努める。                                    |
|                   | ④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか                               | 4       | 3        |         |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                          |
|                   | ⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか                        | 4       | 2        | 1       |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                          |
| 活動の<br>成果         | ⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか                           | 4       | 3        |         | ・減肥により収量が向上した点は評価します。データ実証を重ねていって、地域への普及をお願いします。<br>・減肥の実証を継続して、栽培技術の確立・普及に取り組んでほしい。                                           | ・コンタミ対策として、収穫機械の清掃等を周知している状況。経営の大規模化に伴い、複数品種を栽培する生産者が増加すると考えられるため、継続してコンタミ対策を周知する。                                                                                       |
|                   | ⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか                            | 4       | 3        |         |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                          |
| 活動の<br>波及性<br>と改善 | ⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか                               | 5       | 1        | 1       | ・地力窒素の分析が2日程度で可能になったことは、適正施肥、コスト低減につながることから、その周知にも力を入れていただきたい。<br>・ドローンの操縦技術の向上対策をやってほしい。<br>・経営体の労働力確保対策、経営支援を強化する取組等の提案がほしい。 | ・乾田直播や再生二期作などの新技術については、今後も試験研究機関等と連携しながら地域での実証を進める。<br>・直播栽培については、条件や課題を整理し、導入意向の各生産者等と栽培方式や作業体系等協議しながら支援を行う。<br>・今回の直播実証では労働費、育苗費を削減することで収益確保を図った。収益性向上にむけて単収向上支援に取り組む。 |
|                   | ⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか                           | 4       | 3        |         |                                                                                                                                |                                                                                                                                                                          |

### 3 南薩地域の水田営農確立とニーズに応じた水稻の生産拡大

## 多収品種の生産強化と早期水稻産地維持に向けた支援

### 成果の要約

- 1 高温登熟耐性を有する多収品種「なつほのか」の導入支援を行った結果、栽培面積が2年間で約2.6倍に増加した。多収品種導入による収量向上に加え、一等米比率も74%（「コシヒカリ」：7%）と上昇し、生産者の所得向上に繋がった。
- 2 コメ不足を受けて、「なつほのか」の再生二期作実証に取り組んだ。一期作目と二期作目あわせて約800kg/10aの収量が得られ、生産者の所得向上に繋がった。
- 3 労働力不足を解決する手段の一つとして、水稻直播栽培の導入支援を行った。漏水や雑草の発生を抑え、順調に生育した。収量は減少したが、労働時間や生産コストの削減に繋がっており、省力化技術としての有効性を示すことができた。

### 1 対象

- (1) JA 南さつま大笠水稻部会 53 戸  
南さつま大笠地区加工用米生産者 14 戸
- (2) 規模拡大志向農家

### 2 課題を取り上げた理由

- (1) 猛暑による高温障害で等級低下が問題となっているが、従来の「コシヒカリ」から、高温登熟耐性を有する多収品種「なつほのか」への切り替えが進んでいない。  
また、水稻生産者の大規模化が進んでいることから、早生・晩生品種の組合せで作期分散を図る必要がある。
- (2) 水稻生産者の規模拡大が進んでいるが、労働力確保が難しい状況であり、省力化を図る必要がある。

### 3 活動の内容及び成果

- (1) 早期水稻多収品種の生産強化  
ア 「なつほのか」の生産拡大支援  
南さつま市大笠地区で「なつほのか」の現地検討会を開催し、品種の普及を図った。あわせて、熟期の遅い「なつほのか」に適したウンカ対策等の防除体系を推進し、生産安定に向けた支援を行った。その効果もあり、大笠地区の「なつほのか」作付面積は、60ha（令和5年）から160ha（令和7年）まで増加した。

また、近年の高温条件下においては、高温障害による白未熟粒の発生が問題となっており、「コシヒカリ」の一等米比率が7%（令和7年度、大笠地区）と低いのに対し、高温登熟耐性を有する「なつほのか」は一等米比率が74%と高く、「なつほのか」の導入が生産者の所得向上に繋がった。



写真1 「なつほのか」の現地検討会

#### イ 「なつほのか」再生二期作の収量品質向上支援

大浦潟干拓に「なつほのか」再生二期作実証ほ場を設置し、生産者、JA、農業開発総合センター、農機メーカー等連携しながら、再生二期作の品質収量向上支援を行った。再生二期作とは、収穫した稲株から再生した稲穂を再度収穫する栽培方式で、南薩地域の温暖な気候を活かした低コストな栽培方法である。現地で従来行われていた再生二期作は、二期作目は無施肥、無防除であったが、実証ほでは一期作目途中での追肥（二期作目基肥）、二

期作目のカメムシ防除を行った。また、収量の向上を目指して、一期作目収穫時には高刈り収穫を行った。その結果、二期作目の収量が約 200kg/10a となり、一期作目の収量約 600kg/10a とあわせて約 800kg/10a の収量となった。低コストな再生二期作で収量を確保することができ、生産者の「稼ぐ力」の向上につながった。

また、展示ほを活用した現地検討会を開催し、地域内外の生産者、関係機関との意見交換等を行った。米価高騰を受けて再生二期作への関心が高まっており、活発な議論が行われた。



写真2 二期作目の「なつほのか」



写真3 再生二期作現地検討会

## (2) 産地維持のための省力化技術の確立

### ア 水稻直播栽培導入支援

水稻直播栽培とは、労働負担が大きい田植えを行わず、種もみを直接ほ場に播種する栽培方法である。担い手の減少、高齢化に伴って稲作の大規模化が進む中で、省力化技術として関心が高まっている技術である。令和6年度から南さつま市金峰町大野で乾田直播栽培の実証を行った。

乾田直播栽培に取り組む上で課題となるのが、漏水と雑草の発生である。安定した収量を目指すため、実証農家と綿密な打合わせを行い、乾田直播栽培に取り組んだ。

漏水対策としては、レーザーレベラーによる均平作業と、播種後の鎮圧を2回実施した。また、畦畔からの漏水を防ぐために畦塗りを実施した。雑草対策としては、雑草の発生及び水稻の生育に応じた除草剤散布を行った。各対策に取り組んだ結果、漏水及び雑草の発生を抑制することができた。水稻も順調に生育し、収穫まで行うことができた。

今回、乾田直播栽培実証に取り組んだ結果、収量は従来の移植栽培の約8割であった。しかし、育苗・代かき・田植えが不要となり、労働時間は移植栽培の約2割に短縮された。育苗費や労働費などの生産コストも約3割に削減された。

実証農家からは、「収量は減少したが、作業を一人で済ませることができた。大規模化をすすめる上では非常に有効な技術である。」という意見があがった。今後も継続して取り組む意向であり、単収向上への意欲も高まった。

水稻直播栽培は年々生産者の関心が高まりつつある。省力的な技術であり、地域の担い手として大規模化を進める生産者や、過疎がすすむ集落の農地維持には有効な技術である。農政普及課として、今後も直播栽培の導入及び定着に向けた支援を行う。



写真4 乾田直播栽培現地検討会

## 4 今後の課題

- (1) 高温耐性を有する中生品種「なつまつり」導入支援
- (2) 水稻再生二期作の収量及び品質向上に向けた実証
- (3) 水稻直播栽培の導入・定着支援

## 5 担当した普及職員（〇はチーフ）

〇木村、内門、潟山



## 多収品種の生産強化と 早期水稻産地維持に向けた支援

南薩地域振興局農政普及課 内門佑太

### (1) 多収品種の生産強化支援 ・「なつほのか」の生産拡大支援

米価(仮渡金): 6,000円/30kg (R5) → **R7: 13,000円/30kg**

#### 取り組んだ背景

- ・「コシヒカリ」が高温に弱, 猛暑で品質低下  
【一等米比率: 約7% (コシヒカリ)】 R7: JA南さつま検査結果
- ・高温に強い多収品種「なつほのか」導入進まず  
【収量: 「なつほのか」約600kg/10a, 「コシヒカリ」約500kg/10a】  
※奨励品種特性表より

「なつほのか」: 「コシヒカリ」より**熟期が遅い**  
→ ウンカ・いもち病への懸念  
R5: 大笠地区「なつほのか」作付面積約60ha (22%)

2

## 1 普及指導計画における指導事項

### (1) 多収品種の生産強化支援 → 「なつほのか」の生産拡大支援

### (2) 早期水稻産地維持のための省力化 技術の確立 → 直播栽培導入支援

### (3) スマート農業に対応した水田営農確立

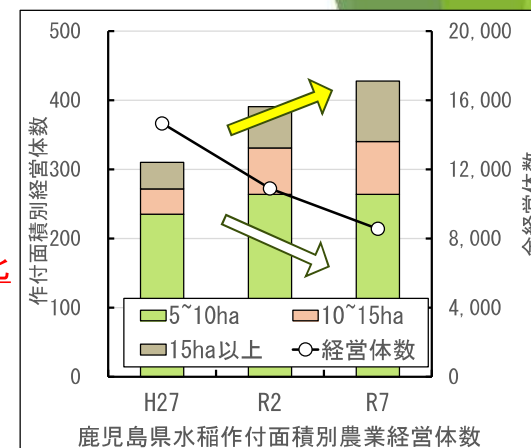
1

### 【課題】

#### ① 高温対策

#### ② 水稻農家の大規模化

→ 晩生「なつほのか」  
“作期分散”



対象: JA南さつま大笠水稻部会、  
南さつま市大笠地区加工用米生産者

南さつま市技連会作物部会(市, JA, 普及)で連携  
→ 実証ほ運営, 検討会, 各種調査等

3

◎普及に向けた取り組み

- 1)「なつほのか」現地検討会  
生産者へ生育特性等周知



- 2)病虫害対策実証ほの設置  
「なつほのか」のいもち病・ウンカ対策実証  
→箱剤の利用で、葉いもち、ウンカ類の発生を抑制



実証ほの成果は、現地検討会  
や出荷反省会、育苗講習会等  
で生産者へ広く周知

箱剤散布

4

- 3)「なつほのか」再生二期作展示ほの設置  
・追肥、収穫時の高刈り、カメムシ防除(9月)実施

ドローン追肥N5kg/a  
(7/22, 収穫2週間前)



一期作目収穫  
(8/5, 刈高さ約20cm)



カメムシによる吸汁害(8/25)



・現地検討会開催

8/5 一期作目収穫



10/30 二期作目収穫



6

R7「令和の米騒動」→ 再生二期作！

- 3)「なつほのか」再生二期作展示ほ設置

“なつほのか” 株の再生力が強

“大浦潟干拓” 温暖, 湿潤, 早期水稻地帯

そば(大浦潟干拓)



湿害で収穫できず

“早期水稻→そば”

- ・干拓地
- ・台風, 大雨

ひこばえ



刈り株

農業開発総合センター, 生産者, 農業機械メーカーなど  
関係機関一体となって展示ほ設置

5

- 3)「なつほのか」再生二期作展示ほ  
・収量: 約800kg/10a  
(一期作目: 約600kg/10a, 二期作目: 約200kg/10a)

◎主食用米として, 約500円/kgで出荷  
→生産者の「稼ぐ力」の向上に繋がった！

生産者からは…

・ソバと比較して, 収益性が良い！  
今までは, 水稻収穫からソバ播種までの期間が短く,  
作業が遅れることも。結果, 霜にかかって…

・早期水稻後の耕耘作業等がなくなった！  
ソバと比べて麦播種までの作業にゆとりできた！

7



◎活動の成果 “なつほのか”の生産拡大支援”

・作付面積増加

R7「なつほのか」栽培面積:160ha (R5:60ha)

・一等米比率向上

R7「なつほのか」一等米比率:74%  
(R7「コシヒカリ」7%)

“なつほのか”は量がとれる！味も良い！

◎「なつほのか」の普及で生産者の所得向上  
再生二期作で「稼ぐ力」のさらなる向上へ

金峰町でも「なつほのか」栽培！

8

(2) 早期水稻産地維持のための省力化技術の確立  
・直播栽培導入支援

取り組んだ背景

- ・高齢化、離農 ⇒ 担い手へ農地の集積・集約
- ・育苗、代かき、田植えに労力 ⇒ 労働力不足

うちの田んぼを使ってくれないか…？

- もうこれ以上受けられない！人手も足りない！
- ・遠くの田んぼ、条件の悪い田んぼはちょっと…

◎地域の担い手として面積を増やさざるをえない…  
→育苗・田植え不要の乾田直播栽培

実証農家:規模拡大志向農家(南さつま市金峰町)

- ・早期水稻, ソバなど約50ha作付け, 労働力:家族3人
- ・オペレータは本人1人

9

◎乾田直播実証概要

- 1 供試品種:「イクヒカリ」(飼料用)
- 2 対照区:「イクヒカリ」移植区(4/14移植)
- 3 播種量:4kg/10a(4/11播種)
- 4 施肥:N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O = 8:8:8(kg/10a)  
(緩効性肥料140日タイプ)
- 5 生育概況等
  - ・発芽:4/24(播種13日後)
  - ・入水:5/29(イネ6葉期)
  - ・出穂:7/9(移植区:6/27)
  - ・カメムシ防除:7/31(スタークル液剤10)
  - ・収穫:8/22

10

【課題】①漏水 代かきなし、水が抜けやすい  
②雑草 成長遅い、雑草発生しやすい

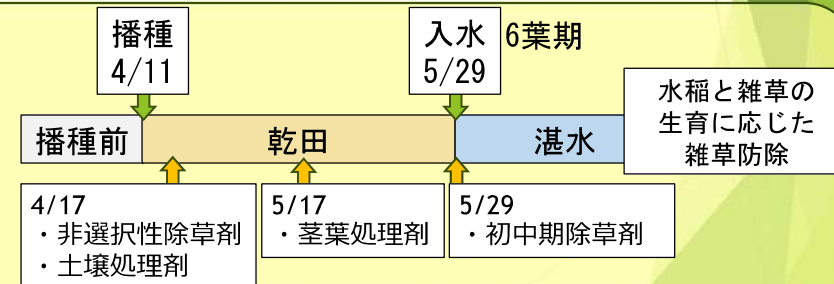
漏水対策



畦畔部、圃場内からの漏水を抑制

○播種後鎮圧 4/17, 4/19

雑草対策



11

## ◎乾田直播栽培の生育経過



表 成熟期調査及び収量調査結果

| 試験区  | 出穂期<br>(月日) | 稈長<br>(cm) | 穂長<br>(cm) | 穂数<br>(m <sup>2</sup> ) | 精粳重<br>(kg/10a) | 精玄米重<br>(kg/10a) |
|------|-------------|------------|------------|-------------------------|-----------------|------------------|
| 乾田直播 | 7/9         | 64.3       | 18.4       | 273                     | 419             | 316              |
| 移植   | 6/27        | 76.5       | 15.7       | 340                     | 471             | 389              |
| 移植対比 | +12日        | 84%        | 117%       | 80%                     | 89%             | 81%              |

- ・出穂期：12日遅
- ・収量：約2割少

12

## (2) 早期水稻産地維持のための省力化技術の確立

### ◎生産者からは・・・

- ・収量は減ったが、作業を一人でこなせた！面積をこなせる
- ・地域の担い手として、大規模化を進める上で非常に有効！
- ・直播に今後も取り組む！単収向上を目指す！

現地検討会等開催，地域の生産者へ周知



8/7 現地検討会



9/10 直播研修会

・作業分散ができるので、田植え後のサツマイモ植付にゆとりができる！

・過疎が進む集落の農地維持に有効！

“来年から取り組みたい！”  
“今後導入を検討していきたい！”  
直播栽培への意欲高まる

14

## ◎乾田直播栽培の評価

- ・労働時間  
育苗，代かき，田植え 無  
労働時間：約80%短縮

- ・生産コスト  
育苗費，労働費削減  
約68%削減

- ・所得 生産費抑・収量減  
移植比 99%

表 労働時間の比較 (h/10a)

| 作業   | 移植水稻 | 直播水稻 |
|------|------|------|
| 種子予措 | 0.20 |      |
| 育苗   | 3.20 |      |
| 耕うん  | 0.24 | 0.24 |
| 鎮圧   |      | 0.73 |
| 代かき  | 1.00 |      |
| 播種   |      | 0.24 |
| 施肥   | —    | 0.16 |
| 田植   | 2.20 |      |
| 水管理  | 0.21 | 0.04 |
| 合計   | 7.05 | 1.41 |

| 費用                | 移植水稻   | 直播水稻   |
|-------------------|--------|--------|
| A 経営所得安定対策        | 70,865 | 58,212 |
| B 飼料用米売上費         | 12,837 | 10,428 |
| C 生産費（差のある費目のみ）   | 21,000 | 6,738  |
| A+B-C所得（差のある費目のみ） | 62,702 | 61,902 |

13

## 今後の課題と展開

- (1) 多収品種の生産強化支援
  - ・高温耐性を有する多収品種導入支援

「なつほのか」は収穫遅い・・・

新品種「なつまつり（成熟期：7月下旬）」の実証！  
品種の組合せで作期分散，経営規模拡大の推進へ

- (2) 早期水稻産地維持のための省力化技術の確立
  - ・直播栽培の定着・導入支援

平場・中山間地域，主食用・WCS用など  
地域の実情に応じた直播栽培導入を支援  
地域の農地を将来へ繋ぐ

15